

東部筑紫平野の人口地理

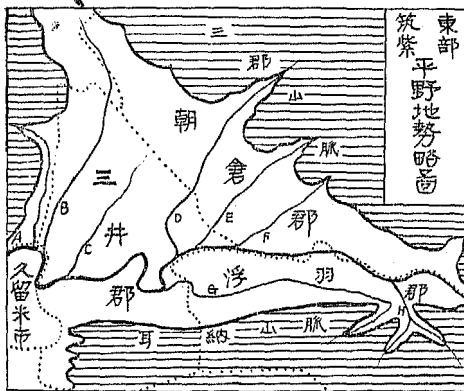
中川 知進

一、位置及び地形概観

所謂筑紫平野なるものは、久留米市を界として二つの三角形地域に分つことが出来る。其の東部にあるものが此處に記せんとする東部筑紫平野であつて、南は耳納傾斜地塊の前面、東北は三郡斷層線、西は背振山地の東麓と接し略東北部を底邊とする直角三角形状を呈してゐる。然して西部も亦加藤氏の如く寶滿川斷層線の存在を想像する時は、東部筑紫平野は此等三つの構造線により生じた一つの盆地と見るべきである。筑後川は平野の南部を東西の方向をとり蛇行し、支流としては南より隈、上川、巨瀬川の二つを合せるに過ぎないが、北三郡山脈よりは寶滿

川、太刀洗川、小石原川、佐田川、荷原川等多くの

第一圖



- A 筑後川
 - B 寶滿川
 - C 太刀洗川
 - D 小石原川
 - E 佐田川
 - F 荷原川
 - G 巨瀬川
 - H 隈上川
- 支流を
入れて
ゐる。
従つて
本地域
の大部
分は此
等河川
の沖積
平野に
屬し、
僅かに
山麓部

及び西北部に洪積層の臺地を見るのみである。

以下本平野に於て、總ての社會活動の原動力たる人口が、如何なる制約の下に如何なる現象を呈してゐるか、その相關々係に就き考察してみたい。記述の範圍は浮羽三井朝倉の三郡に亘るを以つて、筑紫川中流々域の人口地理とした方が或は妥當であるかも知れないが、三郡人口の殆んど全部が本地域に占居せるを以つて標題の如くした事を斷つておく。

二、一世帯平均人員と産業構成

大正十四年第二回國勢調査の結果によれば、本地域の人口は二〇萬三六〇二人、一世帯平均人員に就き見るに、若松門司八幡の諸市が四・四人であるのに對し、東部筑紫平野は五・六人で縣内第一の大家族地域をなしてゐる。此の一般に大家族であることは第一表にても分る如く本地域の産業構成が、農業を主とせる結果と思はれる。何となれば山陰地方の如き多少の例外は別として、一般的に云ふなら吾が國では、商

第一表主要職業別戶數

職業	浮羽郡	三井郡	朝倉郡	計	百分比
農業	四六四	六六〇	七三四	一八五八	八〇・四六
商業	六〇三	九〇〇	二九〇	二五九三	一一・四七
工業	四三〇	四五二	五五九	一四四一	六・七三
水産業	三	一九	一三	六五	〇・二九
礦業	五	〇	四	九	〇・〇四

工地程一世帯平均人員少く、農村程大である。云ひかへれば文化の程度高き地域は平均數小で文化低き地方は大であるとも云ひ得るのである。

その二三の實例を求むるならば、神戸市が四・三東京市が四・五であるに反して、青森縣上北郡が六・三宮城縣亘理郡が六・四である。まだ擧げ來つたなら數限りなくあるが、兎に角以上二つの相反せる事實からしても、東部筑紫平野が如何なるローカルカラーを有するかは略想像することが出来る。

更に又五、六なる數は他出者以外の、現住者のみに就いての計算であつて、若し他出者無きものとするときは、一世帯平均人員は恐らく七人近くになるであらう。

三、人口性別と人口移動

前項に於ては主として一世帯平均人員よりして本地域の一部を窺つたのであるが、次に男女性別に就き考察するに可成不平均の様である。勿論男一〇〇對女一〇〇と云つた様に都合よく行つてゐたら誠に結構なことである。然しながらかゝる地域は少く、何等かの地理的原因に支配せられて不平均を來たし、その性別の不平均は各地方をして獨特の風俗習慣を作らしめ、或ひは社會問題の根本原因をさへなすことがある本地域は出生兒の性別は女一〇〇に對して男一〇五、七であるが(大正十四年縣統計)、現住者は女一〇〇對男九四・七人にすぎない。

男より女の多い原因は、地方地方により各々異つたものがあるに相異なる。或ひは氣候の影

響だとか、或ひはその地方の迷信だとか、その外多くの先天的原因に支配されると云はれてゐるが、多くの場合その土地の産業構成の反映と見るべきである。即ち第一表主要職業別戸數に於て見たる如く、本地域は農業戸數八一、四八パーセントを占むるを以つて、生産の増加率は人口の増加率に及ばず、爲に個人に對する生活條件が益々不利となり、而して此の現象は更に生存競争をして辛酷ならしめて行く、斯くの如き状態が永續する時は、人口稀薄なる地域或ひは生活條件の有利なる地域への移動を誘導し、此處に人口の移動を來たし、その人口移動が本地域の地理的位置と養蠶その他の副業及び本地域に發達せる特殊工業等に制約せられて、女の移動より男の移動の方大なる爲、斯くの如き不平均を來たしたものである。そして此の現象は現代農村の一特質とも見られる。何となれば之に反して女より男多き地方は商工業地か或ひは開拓途中の地方に多く認められるからである。その一例を示すなら

北海道釧路國支廳 女 一〇〇對 男 一一七・
 北海道全島 " 一〇〇對 " 一〇九・
 八幡市 " 一〇〇 " 一一四・八
 門司市 " 一〇〇 " 一一四・二
 横濱市 " 一〇〇 " 一一二・
 東部筑紫平野 " 一〇〇 " 九四・七
 沖繩縣國頭郡 " 一〇〇 " 八九・
 鹿兒島縣大島郡 " 一〇〇 " 八九・

以上の諸例でも分る如く、農村―而かも疲弊したる農村程女の數多きものゝ様である。之れ全くその土地の地理的要素に支配せられて男女不平等の人口移動を起した結果である。

四、人口移動の地理的原因

農業を主生業とするより外何等恵まれてゐない本地域は、農業本來の特質として二つの缺陷を有してゐる。一はその勞力が季節的に頗る不平均であつて、或る時期は繁忙を極めるに反し、或る時期は何等の仕事なくして住民の生活を不安ならしめ、一は既に述べたる如く生産の増加率は人口の増加率に到底及ばないことである。

此等二大缺陷は現在までの社會組織、産業構成が變化しない限り存在することである。従つて本地域の如く既に過飽和に達せる人口の消化策としては、生産の増加が望めない以上他に出るより外良策は見出されない。而して此の動機を刺戟し人口移動をして益々盛んならしめたものは、僅か三郡山脈を距てた北方に、吾が國屈指の筑豊炭田、並びに之と共に發達した北九州工業地帯の存在せること、及び人口稀薄にして比較的生存競争少い朝鮮臺灣の植民地に近く位置してゐることを擧げねばならない。

第二表 人口移動先と移動數

移動先	郡別			合計
	浮羽郡	三井郡	朝倉郡	
1 自郡内他町村へ	三七五	三二二	四九四	一〇八九
2 縣内他都市へ	一七九三	一六八三	三三〇九	四九三五
3 他府縣へ	四六五	四九四	六四三	一六〇二
4 在 朝鮮	一四〇九	三六〇九	三二一	七九九
5 在 臺灣	二九六	六〇三	五九	一四八七

6	在 樺 太	二	一三	一〇	二五
7	在 關 東 州	一四二	二五五	五七六	九七三
8	在 南 洋	三	四三	三	六七
9	在 外 國	四七〇	五六〇	二四三	二七五
10	ソ ノ 他	七九	一四三	一九九	四四二
11	合 計	二、四〇三	三、三〇四	三、九六六	一〇、三三三
12	他 出 百 人 ニ ッ キ 入 人 口	一〇、一六	一、七七一	一、五、六三	一、七、九六

第二表人口移動先にて分る如く、その總數は一〇萬二九四二人で現住人口の半數以上を示してゐる。その中最も多きは縣内他都市への四萬九五二五人であつて主として筑豊炭田、及び北九州工業地帯へ分布してゐることは勿論である。

故に此の點から云へば東部筑紫平野は北九州地帯に於ける勞力の供給地の觀がある。

五、人口年齢構造と副業

人口年齢構造もその地方の個性を知る必要條件の一つである。東部筑紫平野に約二十萬の人口

東部筑紫平野の人口地理

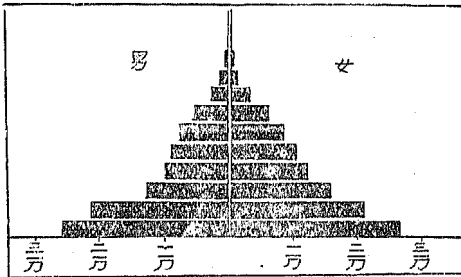
を有するのであるが、此の人口は年齢上如何に分布してゐるか、若しその分布の狀が正常であるなら幸であるが、變態一たとへ二十萬の人口を有してゐてもそれが老人子供のみであつて、働き得る人即ち生産能力を有する者が少いとすればそれは憂ふべきことである。

第三表は東部筑紫平野の人口年齢構造表であつて、此の表によれば本地域は一見正常なる分布—ピラミッド型—の様であるが、尙詳細に觀る時は此處にも農業地帯らしい個性の現れを見出すことが出来る。女子の方は大體に於て正常であるが、男の方は二十歳より四十歳までの間に於て四面をなし不均に分布してゐる。勿論此の事は夫等相等年齢者の移動から生じた結果であつて、前々項性別に於て男子の少なかつたのが如何なる年齢の者が少いかを知ることが出来る。

女子が正常分布をなし、生産年齢階級に於て移動數男の如く多くない理由としては三つの事實を挙げねばならない。その中最も普遍的であ

つて女子的副業としての機能を發揮してゐたものは、彼の井上傳女史により發明せられた久留米餅であつた。現在では郡部での斯業は殆んど全滅の姿であるが、四五年前までは名は久留米餅であつてもその實、全産額の九十五パーセン

第三表 東部筑紫平野
人口年齢別構造



ト近くは筑紫平野全體に亘る副業的生産であつた。各部落共一二の上流家庭を除いて他は殆んど全部餅を織り多い家では一戸で二臺も三臺もの織機を有し、母娘姉妹して織つてゐた。多少

の技術は要するが、十四五歳の少女から老婆に至るまで織つてゐたことから考へると、さほど

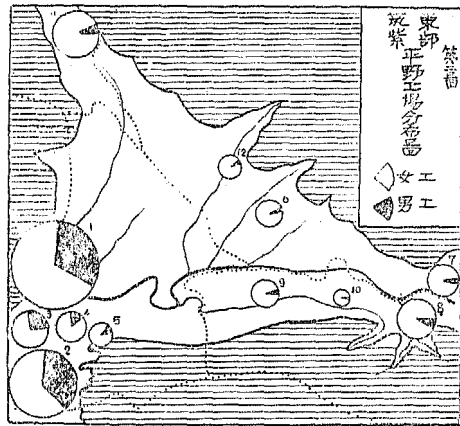
困難でもないらしい。一日普通で一圓熟練者は二圓の工賃を家事片手で得てゐたと云ふから副業としては最適のものであつたにちがひない。

久留米餅と共に剩餘勞力の消化策として發達し、久留米餅不況の現在に於て、農村婦女子相手の唯一の副業として益々隆盛に赴きつゝあるものは養蠶業である。縣下二十七郡市中養蠶業の行はれるもの二十五郡市で、繭總産額は七八九萬九九五七圓であるのに對し、東部筑紫平野は僅か三郡で三七六萬一三二九圓、即ち縣下の三割五分を出してゐる。然しながら養蠶業を斯くまで發達せしめたものは獨り勞力過剩ばかりでなく、地形地質も可成重要な役割をなしてゐる。周圍の山麓、扇狀地及び各地の洪積層臺地は先づ桑畑として利用され、最近筑後川兩岸の帶狀をなせる可成廣い荒畑地が非常な勢を以つて桑畑として開拓せられ、一つの耕作景の變化を來しつゝあることは注目し値する。

人口年齢構造に於て、女子が割合に正常分布をなしてゐる第三の原因は、東部筑紫平野及び

その附近に女子の勞力を第一條件とする製糸業
その他の工業發達せる爲である。

第 二 圖



第二圖は夫等工場の位置と男女職工の割合を現
したものであるが、工業の性質上女工の數は男
工數よりはるかに多いのである。職工數百人以
上の工場に就き男女工の數を比較するに

(昭和五年八月調査)

1 日本足袋株式會社

〔男工〕 一二五七
〔女工〕 二二六九

東部筑紫平野の人口地理

2 つちや足袋合名會社

〔女工〕 一〇六六
〔男工〕 一四一四

3 鐘紡久留米支店

〔女工〕 三一〇七
〔男工〕 三五七五

4 佐藤棉布擦糸工場

〔女工〕 一七三九
〔男工〕 一〇〇〇

5 國武緋工場

〔女工〕 二一〇〇
〔男工〕 二五〇〇

6 朝倉中央製糸會社

〔女工〕 二四二五
〔男工〕 二四二五

7 杷木村五工場通計

〔女工〕 四三三五
〔男工〕 四三三五

8 若林製糸會社

〔女工〕 五八一八
〔男工〕 五八一八

9 日の出製糸會社

〔女工〕 三七三〇
〔男工〕 三七三〇

10 浮羽製糸會社

〔女工〕 一一〇〇
〔男工〕 一一〇〇

11 山十二日市製糸會社

〔女工〕 七九九四
〔男工〕 七九九四

12 朝倉郡是郷糸會社

〔女工〕 二二二六
〔男工〕 二二二六

1乃至3の各工場はその位置的關係から、職
工全部が東部筑紫平野から供給されてゐるとす
るは少しく早計であるが、久留米驛に於ける職
工乗車地別から見ても全然無視することは出来
ない。4以下の各工場はその勞力の殆んど全部

を本地域から仰いでゐる。

北九州工業地帯が男を主とする工業であるに對し東部筑紫平野では全工場が絶對多數を占むる女の手によりて運轉せられてゐると云ふことは面白い對照である。

以上三つの條件が本地域の女子年齢構造を正常ならしめた主なものと思はれる。

六、人口分布

本地域の人口分布状態を見るに、一樣に分布せずして或幾つかの地理的要素、及び歴史的影響を受け、三つの分布區域を作つてゐる様である。今各分布様式に就き如何なる支配の下に如何に分布してゐるかを考察して行くこととする。

(一) 筑後川以南の人口分布

第三圖はその一部を示したものにすぎないが本圖でも明らかに讀み得る様に此の地方の特徴は聚落の分布が三つの帯をなして相平行してゐることであつて、その中最も完全な帶狀をなしてゐるものは耳納山麓に沿ひて發達したもので

ある。然しながら山麓帯に人口分布が濃密であり、且つ一つの帯をなしてゐると云ふことは、單に耳納山麓にのみ見る現象でなく、到る處に見られる風景ではあるが、此處程立派な帯をなし密集してゐるのは珍らしい。その原因としては

1 山麓帯は人間生活に必要な水——而かも立派な水を得るに便利である。殊に鳥居博士の説の如く上古本地域が沼澤地をなしてゐたとすれば、尙更山麓部を最適地としたであらう。

2 古代住民が非常に恐れをなしてゐた争鬪その他の危険に對しては、平野部より山麓部の方が好都合である。

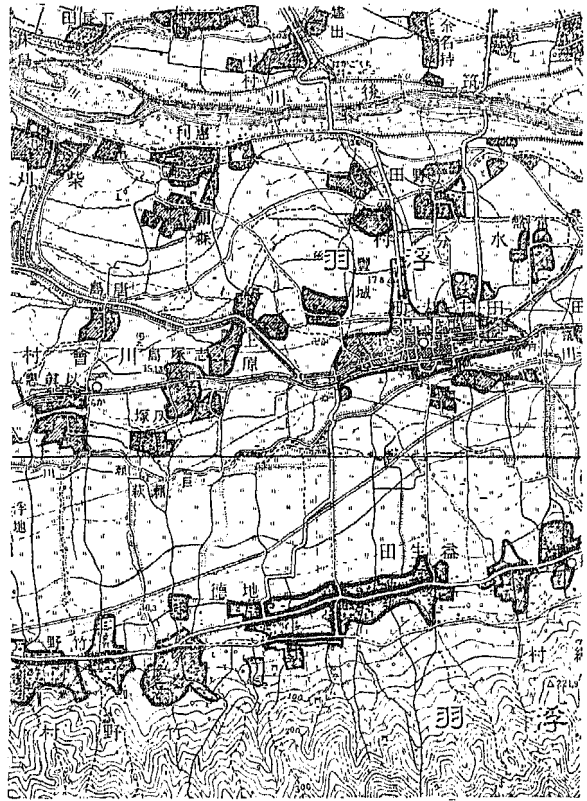
3 山麓部は前方の平野、後方の山兩方から資料を採り得る

4 以上の原因が餘り重要視されない時代になつては、新に起つた土地利用の立場から、地味豊かな平野部に居住を構へるより生産力乏しい山麓部を居住地とした方が、經濟上得策である。

その外幾多生存上有利な點からして、本地帯は餘程古代から先住民の占居する處となつてゐたらしい。その證據としては現在の聚落より稍高い、百米乃至三百米の高度に於て、

一萬を越ゆる古墳群の分布せることによつて

第三圖



筑後川以南の聚落分布

山麓部の聚落を本地域に於ける第一次的のものとするならば、舊往還及び縣道を中心として發達した聚落は第二次的のものである。従つて現在主要交通路に沿へる關係上聚落の核とも見るべきものは本帶上に分布してゐる。

も知ることが出来る勿論平野部からも合せ斐などの發掘は見るが（大正十五年五月八日浮羽郡船越村藏入に於て鳥居博士一行により）その數に於て山麓部の古墳とは同日の談ではない。

が、それでも岸近く位置せずして第一或ひは第二の堤防以外に分布してゐるのは毎年の如く起る洪水をさける自然の結果であらう。

(二) 寶滿川流域の人口分布

此處では筑後川の場合と異り、今朝丸、端間、稻吉の三聚落が交通路に支配せられて河岸に位置してゐる外、他は地形の關係上河岸から五百米乃至千二三百米の間隔をとつて、丘陵尖端に聚落列を作つてゐる。此れ全く水田を宅地化することを防ぐと共に水害から免かれる爲であらう。

(三) 東北部に於ける人口分布

東北部では一見不規則に分布してゐる様であるが、それでも地形及び交通路の影響を全然受けてゐないのではない。金川村、大福村、朝倉村一帯は主として地形に制禦せられ、桑畑をなしてゐる臺地と水田との漸移地帯に分布し、他は交通路及び水路に支配せられてゐる様である。只此の地域の山麓部は耳納山麓程多くの聚落を作つてゐないことが著しい對照をなしてゐる。

七、人口密度及び増減

東部筑紫平野の人口密度は一方料六百五十人位と云はれてゐる。農業地域としてかほどまで

の密度を有してゐることは、全く地力豊富なる結果である。

第四表 米麥反當平均收穫高

郡別	種類			
	米(石)	大麥	裸麥	小麥
浮羽郡	二・五五一	二・二二一	一・五四〇	一・四二九
三井郡	二・二四六	一・八六八	一・四三一	一・一七四
朝倉郡	二・〇四一	一・八一四	一・一五〇	一・〇五〇

従つて早くより人口稠密となり稻の一斤平均耕作反別は僅かに六反五畝、畑地一切を合しても一斤當り八反一畝で全國農家一斤平均耕作反別に比し約三反も少ないのである。故に現在計畫されんとしつゝある金川村及び太刀洗飛行場附近の耕地整理がたとへ實行され、完成されたとしても、それによる人口増加は餘り期待することは出来ない。吾が國全體では明治初年から内地のみで約二倍の人口増加をなしてゐる。然しながら東部筑紫平野では同年間殆んど停滯の

状態である。

浮羽郡	三井郡	朝倉郡	合計
明治四十三年末日 六〇四三	六五九	八七四	二一〇七六
昭和三年末日 五二六二	七〇四四	八四七三	二〇七七八

明治四十三年と昭和三年とを比較する時三萬人の減少を示してゐるが、之は三井郡の一部柳原村國分村等が久留米市に合併せられた爲、及び時代の影響の結果であつて、人口増減を明治

南阿の地形と歐羅巴人の植民

村 松 繁 樹

世界發見時代に次ぐ各大陸に於ける歐羅巴人の植民は實に目覺しきものであつた。而して彼等の活躍は地球上何處に於ても其の地方の地理的環境に制約されながら、或は又之に應化しながら進行したものであつたことは否み得ない。彼のシベリアに於けるロシア人の東進は、假令

初年からグラフに書けば大體二十萬を中心として僅かに上下してゐて直線狀をなしてゐる。従つて二十萬内外の人口が農業組織下に於ける本地域の收容し得る全能力であるらしい。今後此の組織が變化し、生産の増加を來たさない以上東部筑紫平野の人口動態は、飽くまで停滯の状態を續け、勞力の供給地としての人口移動は止まないであらう。

最初の動機は毛皮獸を追求したものであつたとは云へ、實に驚嘆すべき勢力を以て最も華々しく成し遂げられたのであつた。此の間、一年として新領土が露西亞帝國に加へられぬ年とはなかつた。有名なイエルクマックがシベリア植植の基礎を置いた時から、デジュネフがコリマ河口